

議案第 1 号

今後の県立高等学校の在り方に関する基本方針（平成 2 5 年度～平成 3 0 年度）
について

今後の県立高等学校の在り方に関する基本方針（平成 2 5 年度～平成 3 0 年度）について、別紙のとおり提出します。

平成 2 4 年 1 0 月 3 1 日

鳥取県教育委員会教育長 横 濱 純 一

今後の県立高等学校の在り方に関する基本方針(平成25年度～平成30年度)

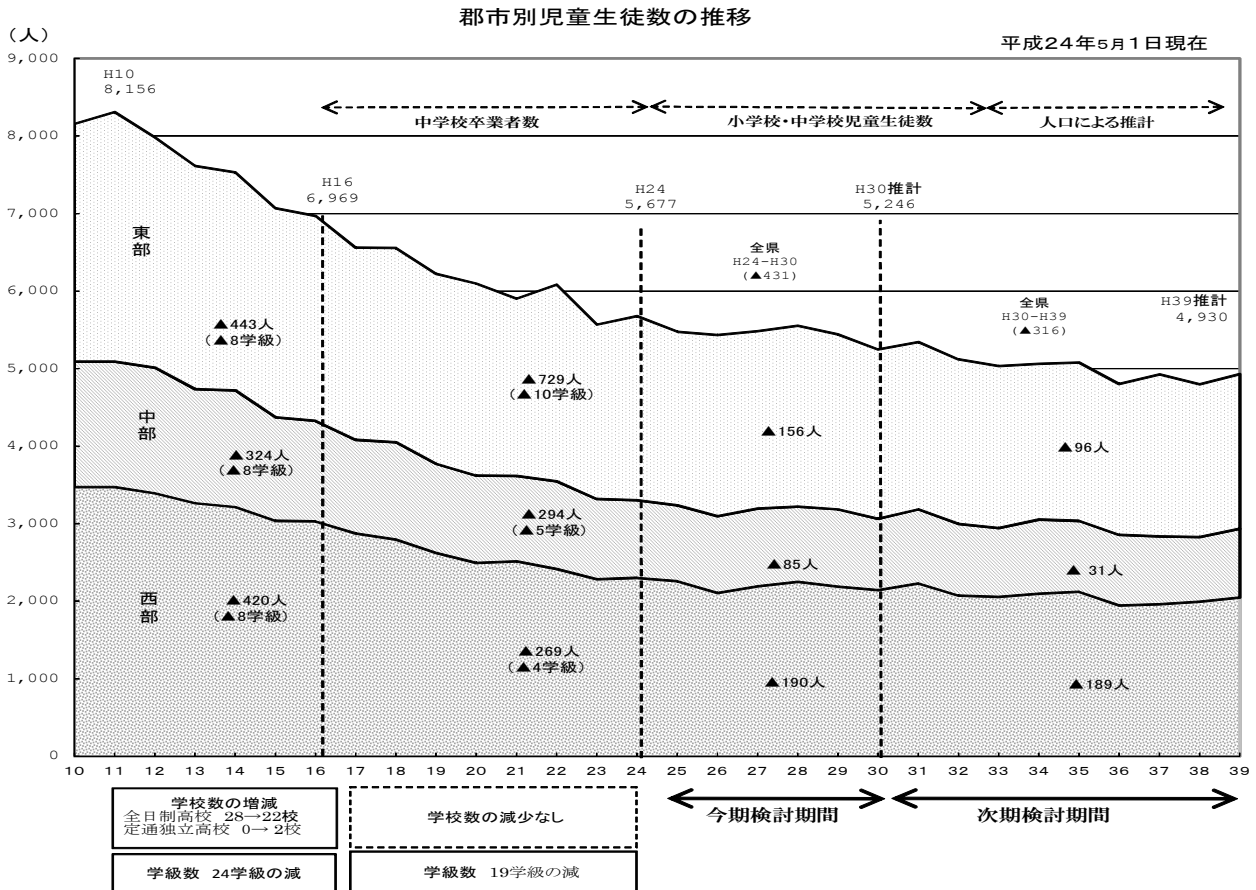
【 概 要 】

平成24年10月31日

高等学校課

1 検討の背景

平成24年3月の中学校卒業生数は約5,670人であるが、今後の生徒数の減少により、平成30年3月における中学校卒業生見込数は全県で約5,240人となり、今後、中学校卒業生数が400人程度減少することが想定される。



2 県立高等学校の在り方

ア 学校の規模

学校の規模	<ul style="list-style-type: none"> ○平成21年2月の答申中、「1学年4学級を下回る場合においても当面は学校を維持する」という考え方を基本的には尊重し、中山間地域の学校で生徒数の減少が顕著な場合については、より特色のある教育活動を行う観点から、その地域の状況等に応じ、3学級未満にすることも検討
今後の学級減	<ul style="list-style-type: none"> ○平成30年度までに8学級程度の学級減が必要 ○具体的な学級減については、各地域の中学校卒業生数の状況、近年の入学者数、地域の産業の実情等を総合的に勘案しながら決定

イ 特色ある学科やコースの編成

環境エネルギー分野	本県では、再生可能な自然エネルギーの活用に積極的に取り組みつつあり、今後、エネルギーの有効利用の促進が期待される中、多様なエネルギーを活用するための電気・電子、環境化学分野等における基礎的な知識や技術を持った人材の育成を図るため、環境エネルギー分野の新たな学科やコースを工業学科に編成する。
福祉の分野	高齢者、障がい者等の福祉に関する様々な知識や技術を幅広く学習し、福祉社会の実現に広く貢献できる人材を育成するため、既存の学科やコースの教育内容の充実を図るとともに、総合学科における福祉関連の系列の内容を一層充実させる。
文化芸術の分野	本県には、メディア芸術分野において、新しい文化を創造する土壌がある。現在、それらを活用して、観光、教育・文化、産業振興などを促進するような取組が始まっており、総合学科に各種メディア芸術を体系的に学ぶことができる系列の設置を検討する。 また、創造力育成の基盤として、音楽、美術、演劇分野などを学ぶことができる環境づくりに努めるとともに、教育内容の充実を図る。
既存の学科など	平成10年度以降の高校教育改革で新たに設置された総合学科について、その理念や特長を生かし、文化芸術分野の系列を設定するなど、一層魅力を高めるために系列の見直しを行う。 また、その他の既存の学科やコースなどについても、今後の在り方を検討するとともに、総合選択制や昼間定時制などの学校や学科についても評価・検証を行う。

3 地域と連携した教育の推進

本県の中山間地域の学校では、生徒数の減少に伴い、入学者が募集定員を満たしていない学校もあり、このまま学校の小規模化が進めば、将来的に学校の存続が危うくなることも考えられる。このような中、地域が学校と連携して学校の新たな在り方を考えるような動きが出てきている。

島根県では、地域が学校と連携して学校の魅力を高め、県外からの入学者数が増加して学校の活性化が図られているような事例もある。

このような他県の例も参考にしながら、中山間地域の学校について、地域と連携して魅力や特色のある学校づくりを推進する。

4 平成31年度以降の県立高等学校の在り方の検討に向けて

平成31年度以降も生徒数が大幅に減少していく中であって、学校がより小規模化していくことが予想されることから、学科やコース等の改編等を含めた学校の再編成を行うことも視野に入れながら検討を進める。

平成31年度以降の県立高等学校の在り方については、なるべく早い時期に県教育審議会に諮問する。